

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	17 - 文芸 - 1
-----------------	-------------

平成17年度配分 研究成果の概要

研究名	「産業考古学館」のバーチャルミュージアム化に向けての研究 バーチャルミュージアム「産業考古学館」研究 —はままつエリア・職人の技(継続)調査と機器・機械環境の研究				
配分を受けた 特別研究費	文化・芸術センター長特別研究費				4,000 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策学部	文化政策学科	教授	種田 明	研究統括;産業考古学・博物館学の視点から、国内外を比較研究。
共同研究者	文化政策学部	文化政策学科	教授	佐々木 崇暉	地域経済論の視点から、産業・博物館を考察する。
	デザイン学部	生産造形学科	教授	伊坂 正人	商品学・マーケティングの視点から、地域のニーズをさぐる
	デザイン学部	空間造形学科	教授	渡邊 章互	建築デザインの視点から、産業建築・博物館を考察する
	デザイン学部	技術造形学科	教授	望月 達也	CAD / CAM / CAEの専門家の視点から、「ヴァーチャル」の技術面を考察する。
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: 『IA News 静岡文化芸術大学産業考古研究・資料室』 Vol.4 & Vol.5		発表日 (発表)	平成18年2月20日 Vol.4 平成18年3月10日 Vol.5	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

「産業考古学研究資料室」(研究室1206)におけるこれまでの調査・研究(新規メンバーに望月を加えた)を維持・継続しながら、新たに“ヴァーチャル・ミュージアム”として産業考古学館を立ち上げる際の問題点を洗い出し、解決策を探り、大学博物館として歩み出す体制を準備することを目的とする。

上記研究資料室のメンバーは、各自の視点からの研究を積み上げ、データ収集・構想についての討議・類例研究(他の産業博物館およびそのサイト)などにより、“バーチャル・ミュージアム産業考古学館”設立へつなげて行くものである。

(研究の実施方法等)

- 基本的には、デジタル・アーカイブ化を視野に入れた平成16年度学長特別研究:
「地域に開かれた「大学付属博物館」紙上構想と展開の研究
ーバーチャル・ミュージアム“産業考古学館”をめざして」を継承・発展させていく。
- メンバーは『産業考古学館ニュースレター』編集会議・研究会をもち、学内・地域のニーズや声(学内は教職員・大学院生・学生の)を分析する。
地域企業からのヒアリングを継続し、企業の展示・広報活動の傾向やねらいをさぐり紙面に活かす。
地域(はままつエリア)の技等の調査・記録を継続して行い、研究蓄積の増大をはかる。
調査・インタビュー・映像記録作成のため、コンサルタント(トータルメディア(株))の協力・助力が不可欠であり、同社との委託契約および連携調査も維持し、情報の収集・整理・分析を行う。
- 研究成果・聞き取り調査やインタビューのエッセンス・その他(たとえば、どのようなヴァーチャル・ミュージアム産業考古学館が本学に相応しいか、の検討など)をまとめて、(いわば機関誌・広報誌の)『産業考古学館ニュースレター』に記事・論説・紹介として公刊する。

(得られた成果等)

「ペーパー大学博物館」としての『産業考古学館ニュースレター』の位置付けが進捗した。

ヴァーチャル・ミュージアムの構想や内容の一端を順次紹介することにより、地域や学内の研究・教育等の動向をわかりやすく伝え理解してもらえたと考えている。

加えて、大学および大学博物館への一層の認知度向上が期待できよう。